

## No. 150

### \* 研究テーマ

組織における道德の不活性化の研究

### \* 研究目的

企業で起こる様々な不正や不祥事（品質偽装、隠蔽、ハラスメント、いじめなど）は、法的な牽制だけでなくすることは難しいと思われる。なぜなら、不正や不祥事に関わる人々は、少なくとも関わっている時には道德的に間違っただけをしていないかと思われているためである。普段は道德的で良識のある人間であっても、ある種の状況では道德心が薄れ、非倫理的な行為を行ってしまうことがある。社会心理学者の A. バンデューラは、このような心理状態を「道德の不活性化」と呼んでいる。

本研究の目的は、日本の組織において道德の不活性化が発生するメカニズムを探求し、これを予防するための方策を検討することにある。まず、道德の不活性化に関する既存研究を渉猟し、これまでの研究蓄積について整理する作業を行なう（令和 5 年度前半）。ここでの主な目的は、道德の不活性化概念の明確化と操作化である。これを通じ、研究に必要な尺度開発ならびに仮説モデルの設定を行なう。そのうえで、アンケートやインタビュー調査を行い、道德の不活性化にいたるメカニズムおよびその影響について調査・分析を行う（令和 5 年度後半～令和 6 年度前半）。ここでの分析を通じ、組織における道德の不活性化を促進するあるいは抑制する個人的・組織的要因を明らかにすることを試みる。最後に、以上の研究を踏まえた非倫理的行為を予防するための方策提言を試みる（令和 6 年度後半）。

### \* 研究チームメンバーと研究課題・分担課題

北居 明（研究幹事） 経営学部・教授

研究課題：組織における道德の不活性化の研究

大西彩子 文学部・教授

分担課題：心理学における道德の不活性化研究の渉猟と整理、実証研究の実施